

●R5年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等

課題の種類1	課題の種類2	課題の詳細	左記課題の解決のために本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標（アウトカム）
②学校と地域の課題	高校・特別支援学校における地域連携の強化	高校においては「学びの場を保障し、これからの時代を生き抜く力を育成する」ために、また、地域においては「地域の活性化」のために、これまで以上に高校と地域が連携・協働することが必要。	学校運営協議会での話し合いを経て、地域や学校のテーマに沿った人材との連携を地域コーディネーター等を中心に進める。また、関係者の理解促進及び資質向上のため、研修会を実施する。	学校運営協議会の取組の結果、地域や様々な人材と連携した活動の増加と、それによる地域・学校相互の理解の促進や地域の活性化。
①学校運営上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	日本の子供たちの自己肯定感が、諸外国の子供たちと比べて低いことが明らかになっており、他者とのよりよき「つながり」を通して、子供たちの自己肯定感を高める取組を進める必要がある。	地域学校協働活動を通して、児童・生徒の自己肯定感・自己有用感が高まったとする事例を収集し、各種研修会等様々な機会で紹介する。	地域学校協働活動を通して、他者の役に立つ活動の機会を増やし、自己肯定感・自己有用感を多く得られるようにする。
①学校運営上の課題	教職員の時間外勤務の是正	令和4年6月調査において、月当たりの時間外在校等時間が45時間を超える教諭の割合が、県立高等学校で36.0%、県立特別支援学校で12.5%となり、時間外勤務の縮減が課題となっている。	地域学校協働活動を通して、教職員の負担軽減につながった事例を収集し、各種研修会等様々な機会で紹介する。	学校・家庭・地域の役割分担の明確化や組織や業務の見直し等により、教員の業務負担が軽減する。
③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	地域学校協働本部未導入自治体があることで、地域協働活動が十分に行き届いていない地域がある。	各自治体の担当者を対象とした説明会を開催し、本部の導入・充実によるメリットや好事例を紹介し、本部の充実が、地域学校協働活動につながることを周知する。	地域学校協働本部の一層の推進が図られることにより、地域学校協働活動の充実につながる。
③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	各自治体において、子供たちの地域との交流の機会が不足している。	子供たちがより多くの地域の大人と交流ができるよう、広報誌や募集チラシの配布等により広く周知をし、新規人材の確保に努める。また、地域学校協働活動推進委員等を対象とした研修会において、人材の育成、資質の向上に務める。	地域人材の増加により子供たちが地域の大人たちと関わる機会が増える。